



雜々拾遺卷第五

聖跡能書の部

上宮太子

聖武天皇

吉備大臣

小野養材

中將

醍醐天皇

弘法大師

藤原敏行

大猷冠後

光明皇后

魚養

橘逸勢

傳教大師

小野篁

慈覺大師

素性法師



あふの通門

菅家とてはる

奥平親王

大納言公仁

法住寺忠通

左大臣有仁とてはる

後白河院

世尊寺行純

六條の寺有房

伏見院

龜明親王

春原佐理

大納言行成

中納言定頼

春原基俊

高倉宮

白河三位経朝とてはる

孝田親王

後伏見院

後光厳院

月卷之末

山海の部

海らふ乾園は安城と現ずる事

比叡山并唐土台山の事

大宰寺并大唐の寺屋山の事

富士山の大人并人虎の事

潮と汐と水とあり事并海原水

宇治の朝日山の事

十五丁

同

十六丁

十七丁

十八丁

十九丁

河内鳴戸の半

十九丁メ

神中まらつ地づくの半

九丁メ

母列子むらぎの半

同

新中妖怪の半

九丁メ

鳥羽の秋の山の半

同

洋中黒魚の半

九丁メ

奥列ちやぶの浦付西行旅の半

九三丁メ

西郷の泥の半

九四丁メ

空う海老島船の半

同

雑々拾遺卷の第五

例文

本綱古今のち能くおほく。神祇のあつてを
そくすうふらうのふあり。才ふを能くとい
そくと能くといふ。やと臨るをさあぐは
ふらふうあむ。ふらふらふらふらふらふ
ふら。字形位あつてき異ふやうに法のと
天子親王家のふらふらふらふらふらふ
次ふ能くといふ。むらふのふらふらふらふ
ふらふらふらふらふらふらふらふらふらふ
朝暮のふらふらふらふらふらふらふらふ

糸巾のち祖を細才のふたあり。その法より
めと得たふ。またあのかたは極足の平政と
て。あつてとあつて威もろろ。奥後寺
の縁起あり

一 聖武天皇の人は甲子年の庚子に御政のめ
とゆふ。東大寺寺にありありありあり
作るとし。一。法紀文より。朕寺皇極と
ハ。大とと皇極と。一。朕寺皇極と。大と
と皇極と。一。と。法紀文より。南知の
皇極とあり。

一 光明寺のち。大藏の法。法海とあり。その
すめ。孝徳天皇の法あり。聖武天皇の法
あり。と。法紀文より。法紀文より。法紀文より。
跡あり。と。法紀文より。法紀文より。法紀文より。

一 吉成天皇の法。法紀文より。法紀文より。法紀文より。
皇極とあり。

一 皇極天皇の法。法紀文より。法紀文より。法紀文より。
皇極とあり。皇極とあり。皇極とあり。皇極とあり。

一 少野の義村ハ。敏達天皇八世の後流あり。その

一 楊の逸^{とつ}勢^{せい}ハ般^{はん}達^{たう}天^{てん}皇^{こう}のあづきり。そ法^{ほふ}さぐ
むあ。はるゑ大^{だい}師^しいふこと。こ遠^{えん}勢^{せい}を所^{しょ}じ
ふ。なるとありひ。ゆす。そそ法^{ほふ}の清^{きよ}ふなり。
所^{しょ}解^{かい}の天^{てん}皇^{こう}の勅^{ちく}ふより。そ大^{だい}内^{ない}之^の門^{もん}の教^{けう}と造^{ぞう}
執^{しやく}力^{りき}なり。

一 中^{ちゆう}侍^{しやう}娘^{ぢやう}ハ右^{みぎ}大臣^{だいじん}を所^{しょ}のむすなり。そそ法^{ほふ}まは
ふ。そ細^{さい}女^{にょ}のうらしてむひあり。

一中侍姫の右大臣を殿のじすめと云はまほ
ふち細女等のうらゝとびあ。

一傳教大師の先祖後漢の獻帝のおうきくはみ
孫あるむて庶民とあり。悉非王の所定よ
とむびくを綱よ来る。さうどさうはたうとあ
らうて。は列志聖の勅とけり。さうさうに
く當をたしけく百校よける。さうさうに
は教大師のふあり。大師はま世のふの
悉年よりけまふうと。さうとふの
と師とてさうくを法とありけり。天
あて師はのふまうと。さうとふの
だうとありす。さうとふの大師のふのふ

文ふちとて得る。法を学ばむと欲するもつ
くは。法に依りてめざるは法よりて
あまびなるなり。大内上二門のうら東面三門の北
と西づゝあまびなる。勅政^{しゆくせい}あるものなり世
のたうともあまなり。

一 少壯のたゞしめの傳でんちふむをうそはなすべ
人あり

一 法王師の撰^{せん}刊^{かん}多^たくの部^ぶ依^よ伯^{はく}の吾^{われ}通^とのふと。
大師^{だいし}在世^{ざいせい}のふのや海^{うみ}とほるす。法^{ほふ}王^{おう}法^{ほふ}師^しのふと。
とくく予^よはふあしゆふ。行^{ぎやう}成^{じやう}ふ物^{もの}ふのふふ文^{ぶん}

よ。ち師の予欲とわめて取欲とあることなり。
 つるの時、まゝあの子はまゝに勅とけりあり
 なる。晋の王羲之が事むする文字の破格と
 していひ。ち師が又あるとりて妙曲とわく
 う。終る。唐詩よりむきたる稱うづる事
 とられてある和尙といふ人の論をよみしる。
 じ事ち師行状の記にある。その中細おあわ
 るる法ふ妙ありし事をきいてうづる。そ海
 らぐめは夏の末椿谷といふ山すお猿啼
 とある。新なく。五拍あるち師となづくる。是

よふくち殺^{ころ}しの魔^ま事^{こと}ふとをよひつてま
つふ^ふつ^つの殺^{ころ}しあくあきうふも。上^{うへ}物^{もの}す
るやふきうてるびあき事^{こと}あり。又^{また}殺^{ころ}しの
まの勅^{しつ}ふうて。大^{だい}に^にの殺^{ころ}しとまう。ある
ぬす人^{ひと}どもあか^{あか}の^のまうとあきう。ふげ大^{だい}
所の事^{こと}ありし。たちま地^ち鬼^きのうらと現^{あら}れ
る。あ^あ賊^{ぞく}事^{こと}ありとあきう。ふげ大^{だい}
守^{しゅ}治^ち大^{だい}細^{さい}の日記^{にっぴ}ふあり。扱^あふ^ふう^うの
はうと事^{こと}あり。法^{はふ}うと時^{とき}中^{ちゆう}の事^{こと}治^ち
とあきうて。守^{しゅ}治^ちふとあきう。大^{だい}守^{しゅ}治^ちふ

[illegible]

けいふまづ。むかしより。まゝとつづき。るる。あつち
 ぎと。凡そ。あつち。まゝ。いり。り。る。凡そ。後。ま。社
 と。い。り。社。あ。ま。つ。る。城。の。堀。坂。の。堀。ち。の。社。こ。ま。こ。
 ま。社。の。こ。り。り。ふ。み。水。あ。り。る。凡そ。ま。世。の。硯。あ。り。
 ま。も。ま。法。と。執。す。る。人。げ。あ。り。と。し。法。と。あ。ま。法。
 ろ。ろ。ふ。う。あ。い。は。り。り。い。む。は。あ。但。そ。う。り。り。ふ。
 師。と。師。と。う。う。

一 近^{きんぎ}きつ子^{えんせい}急^{きん}明^{めい}親^{しん}王^{おう}のくびあるのみあり。
とみ^{とみ}つ^つの達^{たつ}人^{じん}わう^{わう}ふちまもあ^ある。故^{ゆへ}あり。
隠^{いん}遁^{とん}一^い路^ろ所^{しょ}の倉^{くら}らふ^ふはる。所^{ところ}他^た文^{ぶん}おほく

文釋ふのまう

一 菱家えんけの所傳ところつたとふきうす。夜やを病りく抄しやうふ菱家の
る法はふと雪ゆきとと号す

一々事大郎作に編む。大獄冠の後凱せしもの
校収言頼るの孫く。本綱才二の族を佐助と云。
平清盛あり。あつては佐理ほふのあつたり。
ゆゑにあつてはつづるに、あつてはあつたりと
うめいど。そのころ佐理もあつた。あつた
ものの種つぎで、そのまう。むねのむねとす。
けしきふれあつて、あつてはあつてはあつ

えみそ家永く新編と

一 信子納言ら信子ゆめのふきねの孫。和漢のや
人徳事あり。信子の園白殿とむくあけり時。
和漢朗詠集とてむくしりお物よとて。殿下
あのみあづきようびやうくむくおよこめは
とて。

一 信子納言定頼の信子のみ思和漢のや人なり。
定法ふふとて。

一 信子の園白通らにけれあき徳事あり。よ
の殿下入るあきとて信子殿おれふあきの折

し。ふ人あまうの屏風とてうくおれにけい。
あきとてけい屏風ようてけいとてけい。お
おきうとてうく信子の園白殿とてうく
屏風とてうく信子殿とてうくおれにけい。
いふとてあきとてうく信子殿とてうくおれに
けい。あきとてうく信子殿とてうくおれに
とてうく信子殿とてうく信子殿とてうくおれに
とてうく信子殿とてうく信子殿とてうくおれに
あきとてうく信子殿とてうく信子殿とてうくおれに

一 信子の園白通らにけれあき徳事あり。よ
の殿下入るあきとて信子殿おれふあきの折

う。法親王法親王殿へまゐりてまねわうの
奥方とゆへにさうもさうもさうもさうも
とあり。

一 法親王法親王の法親王とまゐるす。さうはさうの
さうさうあり。

一 法親王法親王の法親王とまゐるす。さうはさうの
さうさうあり。

一 法親王法親王の法親王とまゐるす。さうはさうの
さうさうあり。

一 世々々々の法親王とまゐるす。さうはさうの
さうさうあり。

一 法親王法親王の法親王とまゐるす。さうはさうの
さうさうあり。

一 法親王法親王の法親王とまゐるす。さうはさうの
さうさうあり。

一 法親王法親王の法親王とまゐるす。さうはさうの
さうさうあり。

十四

代々々々。

孝ふくむなり

の如く事あり。酒との飲とくをけしうに

まゐる。市倉じんくら多女たにょ縁ゆかりうて世よふあり。

山海の部

海と子乾え園ぢ波女は城ぢと現まる半

あ。も^{うん}海西海のふくのやうな色。よくよく

ありといひてふ。但東あふハとせふにあらむを現
す。

比魯山ひろさん付大谷の天台山てんたいさんの中

ま塚の西面をえりてハ日本の中央よりてふ、
つとあり。げゆふ只山とてふつとさハ魯山
よりふる。古来のふもまつてふゆ。泰山たいざんハ
日本すぬの只此あり。そつとら龍宮りゅうきゆうハ何とら。
天竺の只龍宮りゅうきゆうのありもあふふつと龍宮の何
とてつと。西塔の輪塔りんたうハ本朝中央のまじ
あり。方輿勝覽ほうよくしやうらんとてふ。そつとら天台山ハ。

ちと一万ハチ丈とあり。周ハ六町と一里とて八百
里あり。日本の天皇山とてふ。事振ふり祥あり。
けふハ妙法めうほふ一休の法ほふ法とす。とてふひる。
むらめとむむ。天皇山てんたいさんの何とあり。

大谷おほや付大谷の天台山てんたいさんの中

天皇山てんたいさんとてふ。事振ふり祥あり。泰山たいざんとてふ。
とてふ。今いまの地あり。但人ひとのまゝとてふ。及およびつと。
けふとてふ。とてふ。げゆふ只山とてふ。
分わけとてふ。一馬いつばあり。生なまれとてふ。及およびつと。
うハ大地おほちあり。とてふ。とてふ。とてふ。

新

河内昭子

冊

市の中ふらふ地づの事

雞

一



